

## 巻頭によせて



校長 北村 聡

Kitamura Satoshi

効率優先の考え方が増幅して、能率の悪い事、すぐ役に立たないもの、無駄な労力を伴う事はとかく顧みられない風潮は、人の心が自然を失う危険な状況です。

中国宋代の儒学者、程伊川（1033 - 1107）が臨終の床にあったとき、弟子が近づいて「先生の学問はまさに今こそ役に立ちましょ」と云ったのに対し、伊川はかすかに目を開き、「道の学問にとって役に立つなどと云う言い方は正しくない」と応えました。則ち「道学の根本理念はなんのためにするものでもなく、ただ道そのものために学び、実践するのだ」という事を伝えようと思いました。学問は、すぐ何かの役に立つものではなく、人が人生を心豊かに生きるための宝となるものなのです。

高等学校の授業を受けて、「こんな事を勉強してなんの役に立つのだろう」と疑問に思うことがあるかも知れません。今学んでいる事は、これからの人生を実りあるものにする土台です。決して受験や、競争相手に打ち勝つためだけにあるものではありません。

どんな職業に就いたとしても、仲間や先輩、後輩とのつながりの中で、また同業者とのお付き合いや、大切な商談の場面で、人と人との「和」を大切にする事が求められます。そんなときこそ、学んだものが生かされ、知らず知らずのうちに言葉や物腰に現れて、大きな力となることでしょう。

一見無駄と見えるもののうちに、自然な人間としての真の価値が存在します。